

製品名: NFATc3 (リン酸化Ser165) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05086**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	115kDa

抗原情報

遺伝子名	NFATC3
別名	NFATC3; NFAT4; Nuclear factor of activated T-cells; cytoplasmic 3; NF-ATc3; NFATc3; NFATx; T-cell transcription factor NFAT4; NF-AT4
遺伝子 ID	4775.0
SwissProt ID	Q12968
免疫原	抗血清は、Ser165 のリン酸化部位周辺のヒト NFAT4 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 131-180

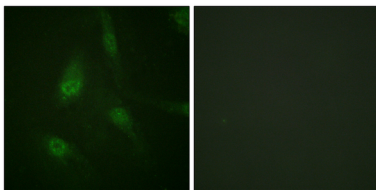
背景

この遺伝子産物は、活性化T細胞核因子 DNA 結合転写複合体のメンバーです。この複合体は、少なくとも2つの成分、つまりT細胞受容体 (TCR) 刺激により核に移行する既存の細胞質成分と誘導性核成分から構成されます。このファミリーの他のメンバーもこの複合体の形成に関与します。この遺伝子産物は、T細胞および未熟胸腺細胞における遺伝子発現の調節に役割を果たします。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードするいくつかの転写バリエーションが特定されています。[RefSeq 提供、2010年11月],ドメイン:Rel 類似性ドメイン (RSD) は、DNA 結合および AP1 因子との協調的相互作用を可能にします。機能:T細胞におけるサイトカイン遺伝子の誘導発現、特に IL-2 の誘導に役割を果たします。PTM:NFATC キナーゼによってリン酸化されます。カルシニューリンによって脱リン酸化される。類似性:1つの RHD (Rel 様) ドメインを含む。細胞内局在:リン酸化型は細胞質内に、カルシニューリンを介した脱リン酸化によって制御される活性化後は核内に局在する。NFATC が速やかに核から排出されることは、細胞が持続性カルシウムシグナルと一過性カルシウムシグナルを区別するメカニズムの1つであると考えられている。NFATC の細胞内局在は、遺伝子転写の調節において重要な役割を果たしている。サブユニット:多成分 NFATC 転写複合体のメンバーであり、少なくとも2つの成分、既存の細胞質成分 NFATC2 と誘導性核成分 NFATC1 で構成される。NFATC4、NFATC3 などの他のメンバー、または活性化タンパク質1ファミリー、MAF、GATA4、Cbp/p300のメンバーもこの複合体に結合できる。NFATC タンパク質はモノマーとして DNA に結合します。組織特異性:アイソフォーム1は主に胸腺に発現し、末梢白血球および腎臓にも存在します。アイソフォーム2は主に骨格筋に発現し、胸腺、腎臓、精巣、脾臓、前立腺、卵巣、小腸、心臓、胎盤、膵臓にも存在します。アイソフォーム3は胸腺と腎臓に発現します。アイソフォーム4は胸腺と骨格筋に発現します。

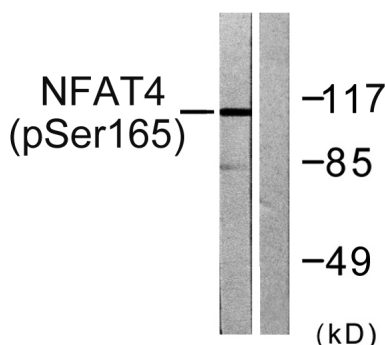
研究分野

WNT;WNT-T細胞軸索ガイダンス;VEGF;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;T細胞受容体;B細胞抗原;

画像データ



NFAT4 (リン酸化 Ser165) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Ca⁺ 40nM 30°処理した HeLa 細胞ライセートの NFAT4 (リン酸化 Ser165) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。